

1 産地の概要

＜対象地域＞豊田市、みよし市
 地域の南部から中央部の標高30～50mの丘陵地帯では、県内でも有数の果樹産地が形成されてきた。販売はJA部会組織による共選共販が主体であるが、大消費地に近い立地条件を生かして、直売に取り組む経営体もある。

＜対象品目＞ 果樹(ナシ、モモ、ブドウ、カキ、イチジク)

＜産地の現状・課題＞

産地の収益力向上に向けた取組が必要であるが、新規就農者の減少や従事者の高齢化により、担い手の減少が懸念されている。今後の産地の維持・発展のためには、作業省力化・効率化を進め、担い手の高齢化や大規模化に対応した栽培技術体系の確立に取り組む必要がある。

2 検討体制

＜スマート農業協議会構成員と役割＞

あいち豊田農業協同組合(役割:協議会との連携、省力化技術の検証)

豊田市、みよし市(役割:産地振興活動の支援)

愛知県豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課(役割:省力化技術の検討、検証支援)



果樹園法面でのリモコン草刈機実演の様子

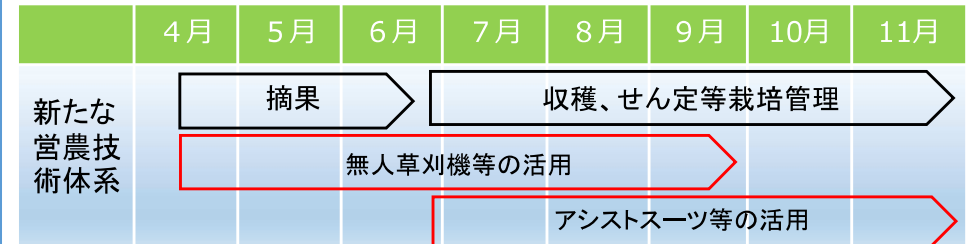
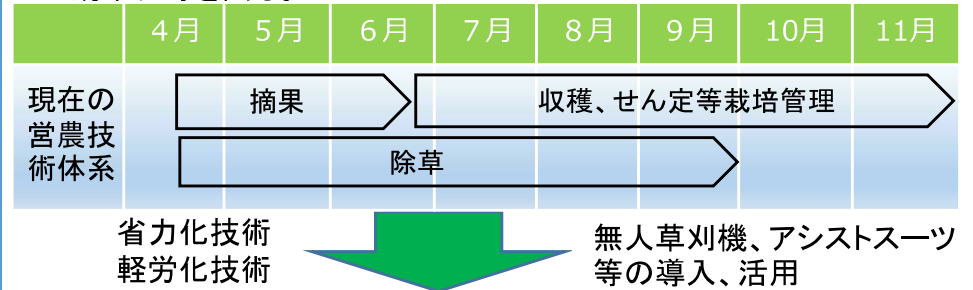


アシストスーツ検討会の様子

3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

- ① アシストスーツ等の活用、② ロボット型無人草刈機等の導入、③ ドローンによる鳥被害防止技術の普及、④ 果樹園管理支援ツールの導入、⑤ 無人防除機の導入
- による省力化等の技術を導入した営農体系を確立し、栽培管理作業の効率化等を図る。



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

現状:草刈作業に負担、危険を感じる→ 検証後:活用により負担軽減、危険回避が可能→ 目標:無人草刈機、アシストスーツ等の活用

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R 3	R 4	R 5
豊田加茂普及課	無人草刈機、アシストスーツ等の普及活動		
あいち豊田農業協同組合	無人草刈機、アシストスーツ等を活用した営農支援		
豊田市・みよし市	産地振興活動の支援		